

## 第4章 史跡保護における現状と課題

### 第1節 整備計画の推移

#### 1 保存管理計画策定以前

##### (1) 史跡の公有地化と『基本構想』の策定

###### ① 史跡の公有地化

史跡の整備計画の推移を史跡の公有地化や整備事業と絡めて概観すると次のようになります。

昭和50年代後半に、史跡内の農地に大規模な機械が導入され、この深耕に伴う史跡の損壊が懸念されました。そこで、昭和62年（1987年）3月に『特別史跡尖石遺跡整備基本計画書』（『基本計画書』）を作成し、昭和62年（1987年）から平成元年（1989年）までの3か年にわたり、史跡を公有地化しました。

###### ② 『基本構想』の策定

その後、郷土の貴重な文化遺産の公開と活用を図るため、史跡を核に、周辺一帯をハヶ岳山麓の縄文文化を感じとり、体験できる場として整備することを目的に、平成2年度（1990年度）に「特別史跡尖石遺跡整備委員会」を設置し、史跡の整備を開始しました。

整備委員会の指導を受け、平成4年度（1992年度）に『特別史跡尖石遺跡整備基本構想』（『基本構想』）を策定しました。

『基本構想』においては、尖石遺跡の考古学研究から、宮坂英弐による日本で最初の縄文集落の発掘、縄文時代の遺跡として最初の特別史跡の指定、「尖石を守る会」の発足から縄文時代の住居の復元まで、尖石遺跡と与助尾根遺跡をめぐる現状の分析を踏まえ、史跡整備の目的と構想が検討されました。

その当時、隣接する与助尾根遺跡周辺については、特別史跡に指定されておらず、当該地の公有地化とこれまで与助尾根遺跡の復元住居群が果たしてきた役割を壊すことなく整備を進めるべきとの指導がされました。

また、史跡整備を進めるにあたっては、当時発掘した状態のまま利用されてきた縄文時代の住居址を保護するための盛土の必要性が指摘され、集落景観をなす重要な整備事項として、水場にあたる谷を取り込んだ集落復元の必要性、現存植生の保護と植生復元について指導がされました。

##### (2) 『基本計画』の策定と第1期整備の実施

『基本計画』の策定にあたっては、『基本構想』を基にハヶ岳西麓遺跡群の中での尖石遺跡と与助尾根遺跡の学術的な検討を踏まえ、計画の再検討を行いました。その上で、考古館と史跡の一体化を展示計画とし、史跡周辺の利用について、整備方針と土地利用についてゾーンを設定し、それぞれ整備事業において実現すべき具体的な内容を明らかにしました。

以上の検討を基に、平成6年（1994年）3月に『特別史跡尖石遺跡整備基本計画』（『基本計画』）を策定し、この計画を基に平成10年（1998年度）から国庫補助事業として第1期整備を実施してきました。この第1期整備は、平成20年度（2008年度）をもって終了となりました。

## 2 保存管理計画の策定

『基本計画』に基づく第1期整備の事業の開始から15年が経過する中で、史跡の保存管理及び整備活用をめぐる状況の変化や新たな課題が生じました。

### (1)状況の変化

#### ①調査成果の蓄積と遺跡範囲の拡大

後の整備を見据えた、平成2年度（1990年度）に始まる史跡内の試掘調査によって、尖石台地と与助尾根台地に営まれた縄文集落の構造の解明に関わる新たな知見が蓄積されました。その一方で、尖石台地に営まれた縄文集落が史跡外（西側）に広がる可能性が生じました。

また、縄文時代に水場として利用された可能性がある尖石台地南側の谷部から、平成13年（2001年）に縄文土器と黒曜石が採集され、同年に尖石遺跡の範囲を拡大しました（この遺跡拡大範囲は、令和2年（2020年）11月20日に追加指定の答申を受けました）。

#### ②縄文をいかしたまちづくり・人づくりへの期待の高まり

平成7年（1995年）6月に「土偶」（縄文のビーナス）が国宝に指定されたことを契機に、平成12年（2000年）に尖石縄文考古館としてリニューアルオープンし、さまざまな活動の拠点となりました。また、『茅野市民プラン』（『第4次茅野市総合計画』）の将来像実現のために、平成22年（2010年）3月に『縄文プロジェクト構想』を策定し、縄文をいかしたまちづくりを進めてきました。

この取組をさらに進めるために、平成26年（2014年）10月に『縄文プロジェクト改定版』を策定し、「縄文文化の精神性」と「縄文時代の文化遺産」をいかしたまちづくり・人づくりをより一層、進めていくことになりました。

#### ③増加する来場者やインバウンド

「第2章 第2節 2観光」で述べたとおり、平成26年（2014年）8月の「土偶」（仮面の女神）の国宝指定以降、史跡に隣接する尖石縄文考古館の来館者は増加しています。また、日本全体でインバウンドが増加していることから、今後は史跡の来場者も増えることが予測されます。

### (2)新たに生じた課題

#### ①調査成果の蓄積による史跡の保存と整備への影響

尖石台地に営まれた縄文集落の西への広がりを明らかにして、遺跡を適切に保存するために、民有地を対象に確認調査を行う必要が生じました。こうした今後の調査成果も踏まえ、『整備計画』で予定され、未整備のままである尖石地区の集落復元等を行う必要があります。

#### ②史跡の活用を補う場の提供

『縄文プロジェクト』の推進により、「縄文の文化・精神をいかしたまちづくり・人づくり」への期待が高まり、これにより市民や行政の意識が大きく変わり、縄文のまちづくり・人づくりに果たす役割が以前にも増して期待されるようになりました。

史跡についても一層の活用が図られることが重要になってきたばかりでなく、史跡周辺に史跡の活用を補うための多目的に活用できる場の提供が求められています。

### ③増加する来場者やインバウンドへの対応

インバウンドも含めた来場者の増加が予測されることから、老朽化した施設の改修、確認調査の成果に基づく遺跡（遺構）の表示、サイン等の多言語化などの史跡の再整備が必要となりました。

### (3)保存管理計画の策定

茅野市及び茅野市教育委員会では、こうしたさまざまな課題を解決し、史跡を適切に保護するとともに、まちづくり・人づくりに活用する方針と方法を具体的に示すため、平成 25 年度（2013 年度）から平成 27 年度（2015 年度）の 3 か年をかけて『保存管理計画』を策定しました。

## 3 史跡整備構想・計画の推移

史跡整備構想・計画の推移は下記に示すとおりです。

#### ■ 史跡整備構想・計画と公有地化の推移

| 策定年                    | 項目          | 実施内容・成果                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和 62 年（1987 年）<br>3 月 | 『基本計画書』の作成  | 『特別史跡尖石遺跡整備基本計画書』<br>○整備の基本方針<br>・ 範囲－尖石遺跡と与助尾根遺跡を一体とした整備<br>・ 現状保存、都市公園的な整備はしない<br>・ 縄文文化、生活を体験するゾーンの設置<br>・ 縄文時代中期の植生に合った植栽<br>・ 寒冷地に適応した整備<br>・ 整備後の管理と運営が容易な整備                                                                     |
| 平成 4 年（1992 年）<br>5 月  | 『基本構想』の策定   | 『特別史跡尖石遺跡整備基本構想』<br>○整備の基本的な考え方<br>・ 人間が活動した場所全てに遺跡が形作られる<br>・ 遺跡の保全には必要以上の配慮が必要<br>・ 眺望・地勢・水利・気象・植生・動物相・隣接遺跡等、全てが総合的に保存される<br>・ 遺跡保護は放置であってはならない。縄文時代の植生復元、縄文人の生活空間の整備。<br>・ 野外博物館としての整備、研究や実験の行える場<br>・ 多くの人に親しまれる場                  |
| 平成 6 年（1994 年）<br>3 月  | 『基本計画』の策定   | 『特別史跡尖石遺跡整備基本計画』<br>○整備の基本理念<br>・ 縄文時代の姿を把握できる整備。時間の重み、文化財の大切さが感じられる整備。野外博物館としての整備。発掘史・学史への貢献がわかる整備。考え・推測・研究させる整備。特別史跡の範囲（拡がり）がわかる整備。自然環境の保護。広く一般に親しまれ、楽しめる整備。<br>○整備の基本方針<br>・ 自然と一体となった縄文集落の姿<br>・ 生きた研究・活用<br>・ 縄文時代の生活文化を総合的に体験する場 |
| 平成 28 年（2016 年）3 月     | 『保存管理計画』の策定 | 『特別史跡尖石石器時代遺跡保存管理計画書』                                                                                                                                                                                                                  |



史跡整備の推移と整備箇所については、下記に示すとおりです。

■ 史跡の整備年度

| 実施内容                  | 実施場所           | H10 | H11 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 |
|-----------------------|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 遺構確認調査                | 与助尾根地区         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 園路工事                  | 与助尾根地区<br>尖石地区 |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 復元住居建設工事<br>(一部市費による) | 与助尾根地区         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 33号住居址表示              | 尖石地区           |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| サイン(説明板・案内標識)<br>設置   | 与助尾根地区<br>尖石地区 |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 構造物撤去工事               | 尖石地区           |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 植栽工事                  | 与助尾根地区<br>尖石地区 |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 堰改修工事                 | 雑司久保堰          |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 堰改修工事                 | 雑司久保堰          |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 堰改修工事                 | 雑司久保堰          |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 人工林カラマツ伐採・間引き         | 尖石地区南東         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| サイン(説明板・案内標識)<br>改修   | 与助尾根地区<br>尖石地区 |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 人工林カラマツ伐採             | 尖石地区北西         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |

出典『保存管理計画』一部加筆修正

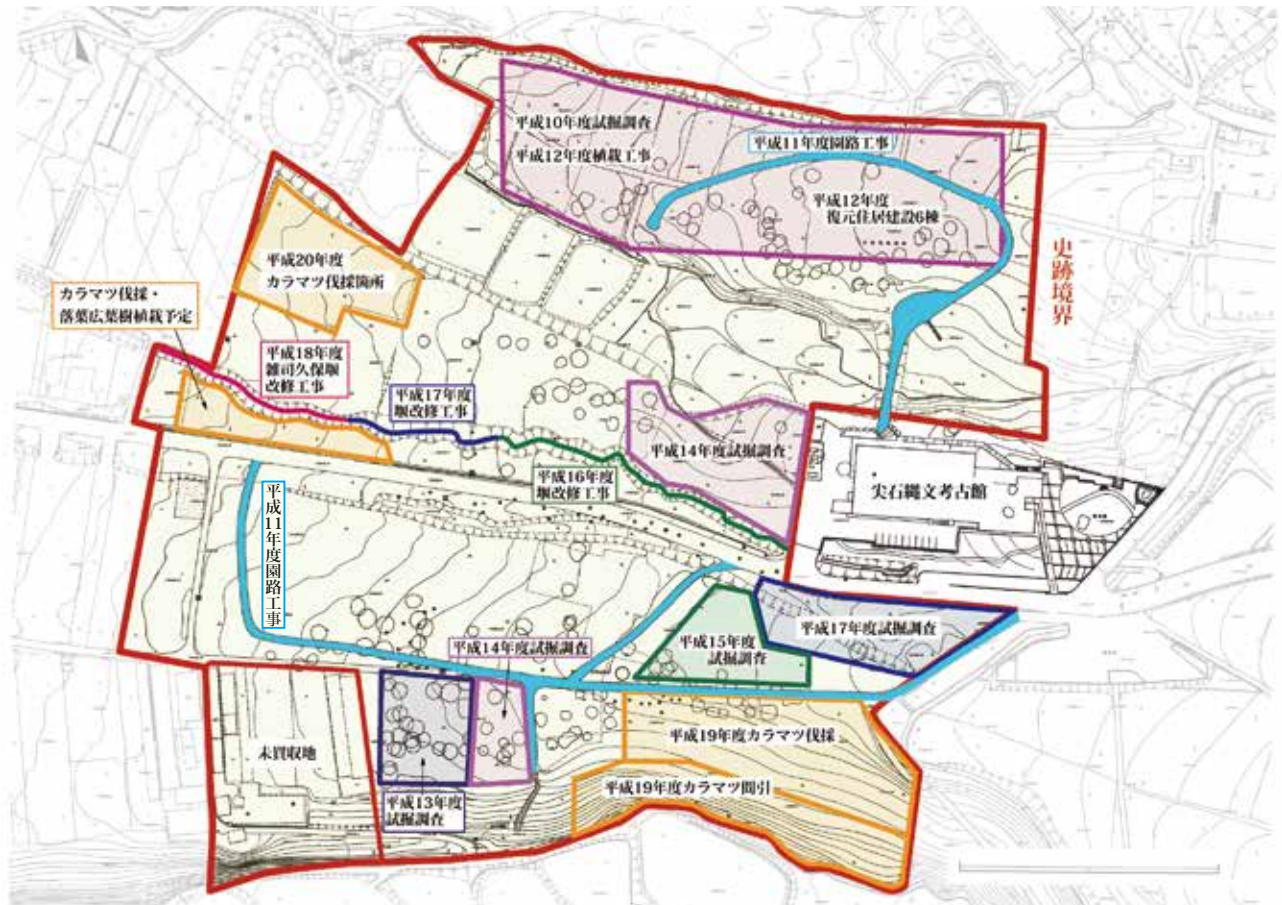


図4-1 年度ごとの整備位置(『保存管理計画』一部修正)

史跡の整備計画の詳細は次に示すとおりです。

■ 整備計画の詳細（『基本計画書』・『基本構想』）

| 地区                 | 計画名称 | 特別史跡尖石遺跡整備基本計画書<br>（『基本計画書』）<br>昭和 62 年（1987 年）3 月                                                                                                            | 特別史跡尖石遺跡整備基本構想<br>（『基本構想』）<br>平成 4 年（1992 年）5 月                                                                                                                                                                                                   |
|--------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 全体                 |      |                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 縄文時代の姿を把握できる整備</li> <li>・ 5000 年の時の流れと重み、文化財の大切さを把握できる整備</li> <li>・ 野外博物館としての整備（現地学習・体験学習）</li> <li>・ 案内板、説明板は景観に配慮した規模</li> <li>・ 縄文遺跡の発掘史、学会への貢献がわかる整備</li> </ul>                                      |
| 尖石<br>(A 区※)       |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民の広場…草地、低花木園などを整備</li> <li>・ 古代の森…縄文時代の樹木を復元</li> <li>・ 古代広場…古代尖石集落を理解する場、周辺樹林復元、住居及び集落の位置表示、発掘展示場、休憩所整備</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遺跡の全域や遺跡群を自然環境とともに復元し、当時の生活環境や文化様相そのものが考えられる整備</li> <li>・ 尖石の台地に当時の集落がイメージできる整備</li> <li>・ 33 号住居跡の覆屋の撤去（覆屋で実際の住居跡を保存し見せるのは無理）</li> <li>・ 復元整備を来場者が考え推測研究できる工夫</li> <li>・ 特別史跡全体が把握できる案内板等の設置</li> </ul> |
| 与助尾根<br>(B 区)      |      |                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外来種、園芸種の植物排除</li> </ul>                                                                                                                                                                                  |
| 谷部<br>(C 区)        |      |                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「広見」の地名にふさわしい植栽で八ヶ岳の眺望確保</li> </ul>                                                                                                                                                                      |
| 南谷部<br>(D 区)       |      | ・ 尖石から西へ回遊できる歩道設置                                                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カラマツの排除</li> <li>・ 未買収地の買収、公有地化</li> </ul>                                                                                                                                                               |
| 考古館<br>(E-1 区)     |      |                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考古館を核に一体化した博物館的整備</li> </ul>                                                                                                                                                                             |
| 考古館付帯施設<br>(E-2 区) |      |                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通安全対策</li> </ul>                                                                                                                                                                                        |
| 青少年自然の森<br>(F-1 区) |      |                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 森林<br>(F-2 区)      |      |                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外来種、園芸種の植物排除</li> </ul>                                                                                                                                                                                  |
| 多目的広場<br>(G 区)     |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験広場…自然の中で古代生活を体験</li> </ul>                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民にとっては憩いの場、レクリエーションの場、観光にきた都会人にとっては自然を満喫できる場所</li> <li>・ 喫茶売店等やレストハウス設置</li> </ul>                                                                                                                      |

※表中地区名のアルファベットは『保存管理計画』（本計画の P65 図 4-4）で示された地区名です

## ■ 整備計画の詳細（『基本計画』）

| <div> <div>計画名称</div> <div>地区</div> </div> | <div> <div>特別史跡尖石遺跡整備基本計画</div> <div>(『基本計画』)</div> <div>平成6年(1994年)3月</div> </div>                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 全体                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・動線(周遊ルート)の設定…駐車場→考古館→与助尾根地区→谷部地区→尖石地区→駐車場</li> <li>・動線計画合わせたサイン配置…総合案内板、総合説明板、誘導標識</li> </ul>                                                                                                                                                               |
| 尖石<br>(A区※)                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・住居跡の復元整備で、縄文集落の景観を創出</li> <li>・配石遺構の整備</li> <li>・「尖石」へのルート整備</li> <li>・雑司久保堰の暗渠化</li> <li>・曽利Ⅱ期住居跡の復元整備と疑露出展示(景観に配慮した覆屋を設置)</li> <li>・園路設置(w=2.5m)と集落部の土舗装</li> <li>・安全対策のため市道境界部に柵、低木設置</li> <li>・現況植生の保全・育成</li> <li>・縄文時代の有用樹木を植栽(ナラ、クリ、クルミ等)</li> </ul> |
| 与助尾根<br>(B区)                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・堀口博士設計の復元住居は現状の形態維持</li> <li>・竪穴住居に盛り土施工</li> <li>・西側畑地の公有地化</li> <li>・曽利Ⅱ期住居跡の復元整備と疑露出展示(景観に配慮した覆屋を設置)</li> <li>・現況植生の保全・育成</li> <li>・縄文時代の有用樹木を植栽(ナラ、クリ、クルミ等)</li> </ul>                                                                                  |
| 谷部<br>(C区)                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の水田は水場として整備</li> <li>・谷部一帯に植生が広がるような植栽実施</li> <li>・森林地区、与助尾根地区をつなぐルートの設定</li> <li>・地形に合わせた土居木階段・木道等の設置(W=2.0m)</li> <li>・ハンノキ林の保護・育成</li> </ul>                                                                                                           |
| 南谷部<br>(D区)                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・水場としての整備</li> <li>・植生の復元で対岸からの視線を遮断</li> <li>・ハンノキの植栽</li> </ul>                                                                                                                                                                                            |
| 考古館<br>(E-1区)                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・埋蔵文化財調査センターと連携した収蔵展示</li> <li>・展示スペースの拡大</li> </ul>                                                                                                                                                                                                         |
| 考古館付帯施設<br>(E-2区)                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場から尖石遺跡へ直接移動できる動線整備</li> <li>・入り口付近の看板等の整理と環境美化</li> <li>・サイン等の設置</li> </ul>                                                                                                                                                                              |
| 青少年自然の森<br>(F-1区)                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林地区、与助尾根遺跡へのルート設定</li> <li>・トイレ新設</li> </ul>                                                                                                                                                                                                               |
| 森林<br>(F-2区)                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現況の植生を保全</li> <li>・与助尾根遺跡及び青少年自然の森へのルート設定</li> </ul>                                                                                                                                                                                                        |
| 多目的広場<br>(G区)                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

※表中地区名のアルファベットは『保存管理計画』(本計画のP65図4-4)で示された地区名です



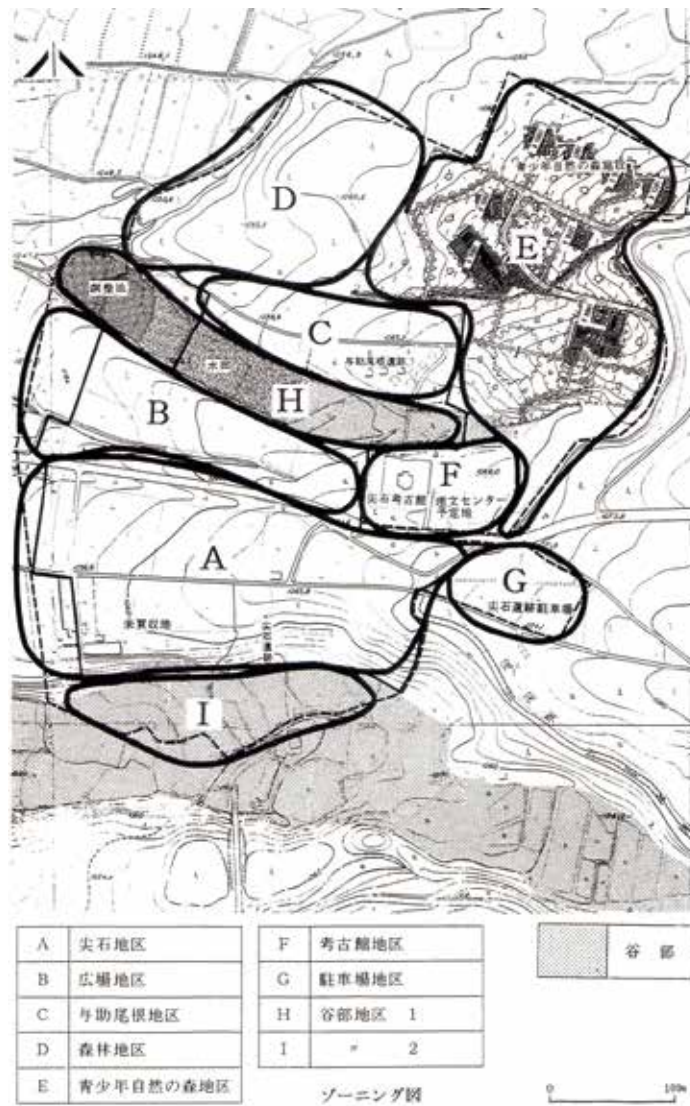


図 4-2 『基本計画』によるゾーニング  
(図中のゾーニングは P62 表のゾーニングとは異なります)

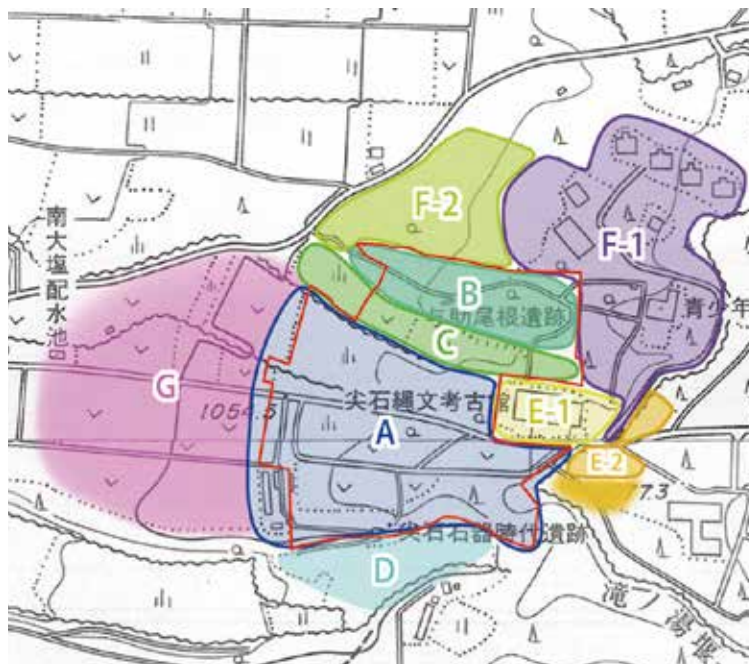


図 4-3 『基本計画』による整備構想

■ 整備計画の詳細（『保存管理計画』）

| <div> <div>計画名称</div> <div>地区</div> </div> | <div> <div>特別史跡尖石石器時代遺跡保存管理計画書</div> <div>（『保存管理計画』）</div> <div>平成28年（2016年）3月</div> </div>                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 全体                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明板・案内板の多言語化</li> <li>・樹木・草花の名称板の設置</li> <li>・史跡の価値が視覚的に理解できる環境整備</li> </ul>                                                                                                                                        |
| 尖石<br>（A区）                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市道（甲1号線）の付替え→人工林伐採、地形復元</li> <li>・遺跡の範囲確認のための調査実施</li> <li>・遺跡の内容確認…確認調査の実施</li> <li>・「廃村エリア」の竖穴表示、「集落復元エリア」での「社会的地区」を中心とした復元</li> <li>・設置済み園路の撤去</li> <li>・集落を取り巻く縄文時代の植生を復元</li> <li>・市民との協働で復元家屋を6棟建設</li> </ul> |
| 与助尾根<br>（B区）                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・与助尾根集落の整備…復元家屋の建替え、祭壇復元</li> <li>・集落を取り巻く縄文時代の植生を復元</li> <li>・史跡にふさわしい草本類の吹付けなどで、斜面の崩落防止</li> </ul>                                                                                                                 |
| 谷部<br>（C区）                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・水場確認のためのボーリング調査</li> <li>・樹木伐採で集落間の眺望を確保</li> <li>・ビオトープとして整備・保全</li> <li>・木道を併設した観察路設置</li> </ul>                                                                                                                  |
| 南谷部<br>（D区）                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「尖石さま」周辺土砂流出の原因把握と保護</li> <li>・史跡にふさわしい草本類の吹付けなどで、斜面の崩落防止</li> <li>・踏み分け道程度の観察路設置</li> </ul>                                                                                                                        |
| 考古館<br>（E-1区）                              |                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 考古館付帯施設<br>（E-2区）                          |                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 青少年自然の森<br>（F-1区）                          |                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 森林<br>（F-2区）                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カラマツ、アカマツ、ハリエンジュ等の伐採</li> <li>・クリ、コナラ、ハンノキ等の間伐</li> <li>・外来樹・外来生物の駆除</li> </ul>                                                                                                                                     |
| 多目的広場<br>（G区）                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・民有地の公有地化による史跡保存</li> <li>・史跡指定地西側に落葉広葉樹林帯を整備…ビオトープとして整備</li> <li>・史跡の活用を補う多目的広場の設置</li> </ul>                                                                                                                       |





|   |         |     |           |
|---|---------|-----|-----------|
| A | 尖石地区    | E-1 | 考古館地区     |
| B | 与助尾根地区  | E-2 | 考古館付帯施設地区 |
| C | 谷部地区    | F-1 | 青少年自然の森地区 |
| D | 南谷部地区   | F-2 | 森林地区      |
| G | 多目的広場地区 |     |           |

図 4-4 『保存管理計画』によるゾーニング

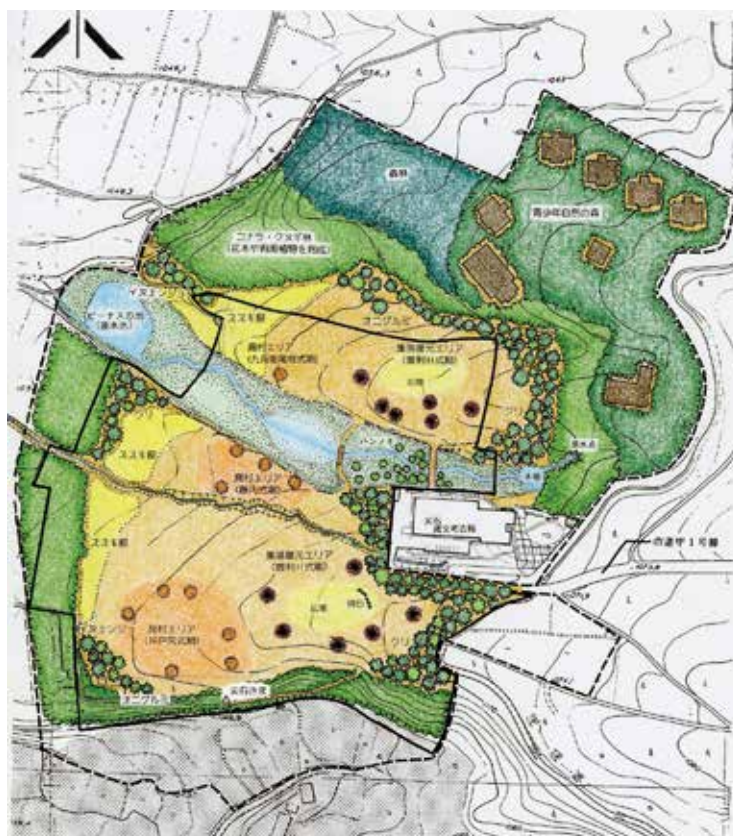


図 4-5 『保存管理計画』による整備構想

## 第2節 第1期整備における成果と課題

『基本計画』に基づく、第1期整備における成果と課題をまとめると次のようになります。

## 1 史跡の保存

| 項目   | 対象地区        | 『基本計画』での整備方針                                | 整備の状況・根拠                                                                                                      |
|------|-------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 堰の改修 | 尖石<br>(A区※) | <b>【雑司久保堰の改修】</b><br>・地区の一体化を図るため、雑司久保堰の暗渠化 | ・堰の洗掘により遺跡破壊の恐れがあるため、平成16～18年度(2004～2006年度)に改修を実施<br>・現在も農業用水として使用されており、管理上の観点から開渠のまま整備<br>・景観に配慮し、改修には自然石を使用 |

## 2 集落復元

| 項目       | 対象地区         | 『基本計画』での整備方針                                                                                                                                                                           | 整備の状況・根拠                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 住居の復元・表示 | 尖石<br>(A区)   | <b>【尖石遺跡の住居復元】</b><br>・住居跡の復元整備を行い、山々に囲まれた縄文集落の景観を創出する<br>・曽利Ⅱ式期に属する可能性の高い配石遺構の整備も検討する<br>・発掘された状態を現場で見せる露出展示とする<br>・遺構保護を考慮し、発掘状況のレプリカを展示する疑露出展示とする<br>・劣化等の経年変化を考慮し、疑露出展示遺構には、覆屋を設ける | 尖石遺跡の住居復元(表左下線)<br>・史跡内に一部公有地化されていない民有地があり、集落景観を復元するための試掘調査が未実施のため、住居や配石遺構等の集落景観を復元することができていない<br>□ 33号住居址(曽利Ⅱ式期)の整備<br>・33号住居址の露出展示は、多くの来場者に情報を提供していたが、遺構が劣化したことから保存が必要となった(P35写真3-14)<br>・寒冷地のため、土壌改良や樹脂で表面を覆うことを検討したが、劣化が激しくなることから、住居址の埋め戻しを行い、外周に礫を配置                                            |
|          | 与助尾根<br>(B区) | <b>【与助尾根遺跡の集落復元】</b><br>・曽利Ⅱ期住居跡の復元整備と疑露出展示(景観に配慮した覆屋を設置)<br>・堀口博士設計の復元住居は現状の形態を維持<br>・保存上の配慮から、現況の竪穴住居跡に盛土を施工                                                                         | ・与助尾根遺跡で発掘された曽利Ⅱ式期の住居址のうち6か所に屋根を葺き、縄文集落景観を復元<br>・集落繁栄期に同時存在した住居の復元・整備をコンセプトとし、曽利Ⅱ式期の住居のうち、炉石が残る新段階と考えられるものを選定の根拠とした<br>・昭和24年(1949年)に堀口捨己が設計し、地元住民の協力によって建設された復元住居の形状と構造を基本とし、曽利Ⅱ式期の6棟を建設<br>・当初設計のまま建設した場合、屋根が接触するものがあり、一部屋根の勾配と高さを変更<br>・設計から施工までの期間が短く、クリ材による均質な材料を揃えることが困難であり、価格の面からもスギ材を柱材として選定 |

※表中地区名のアルファベットは『保存管理計画』(本計画のP65図4-4)で示された地区名です

| 整備に対する評価<br>(◎：メリット、▲：デメリット)                                                                                                                    | 今後の課題                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>◎改修により、史跡が保存された</p>  <p>写真 4-1 尖石地区 雑司久保堰改修（平成 17 年度工事）</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>尖石地区北側の廃村エリア（藤内式期）へ行くには堰を横断しなければならないため、エリア整備後は横断方法を検討する必要</li> </ul> |

| 整備に対する評価<br>(◎：メリット、▲：デメリット)                                                                                                                                                                                                                          | 今後の課題                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>◎埋め戻しにより 33 号住居址が保存された</p> <p>◎寒冷地に適した方法で住居址の位置と平面規模が表示できた</p> <p>▲外周に配列する礫が、当該期の住居址から見つかっておらず、発掘状態を踏まえた表示になっていない</p>  <p>写真 4-2 尖石地区 33 号住居址表示（平成 12 年度工事）</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>住居構造に対する誤解を招く恐れがあり、撤去又は表示方法の見直しが必要</li> </ul>  <p>写真 4-3 尖石地区 33 号住居址表示（現況）</p>                                                                                                                                 |
| <p>◎学史の重要性を視覚的に伝えられる</p> <p>◎縄文時代の生活や住環境が体感できる</p> <p>◎撮影スポットとして好評</p> <p>▲復元した住居の中に近接するものがあり、同時存在しなかった可能性がある</p>  <p>写真 4-4 与助尾根地区 復元住居（平成 12 年度工事）</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>復元住居の老朽化が進行</li> <li>平成 10 年（1998 年）の試掘調査では、新たに曽利Ⅱ式期の住居址が発見されていることから、今後の確認調査の結果も含め復元する住居址を検討する必要</li> <li>柱にスギ、屋根材の一部にタケを使用し、ハサミでカヤを切り揃えるなど考古学的な研究と成果をいかした建築仕様になっていない</li> </ul>  <p>写真 4-5 与助尾根地区 復元住居（現況）</p> |



## 3 園路及びサイン

| 項目 | 対象地区    | 『基本計画』での整備方針                                                                                                                                | 整備の状況・根拠                                                                                                                                                                       |
|----|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 園路 | 全体      | <b>【動線の設定】</b><br>・動線（周遊ルート）の設定…<br>駐車場→考古館→与助尾根地区→谷部地区→尖石地区→駐車場<br>・園路設置（ $w = 2.5m$ ）と集落部の土舗装<br>・「尖石さま」へのルート整備<br>・森林地区、与助尾根地区をつなぐルートの設定 | ・市道（甲1号線）を挟んだ一体の遺跡であることを示すサイン及び動線計画の検討が必要とされた<br>・尖石地区の一部と与助尾根地区の園路は、下層路盤の上に土質改良を行った山砂を敷き、その上に山砂を敷いて、ローラーで転圧し整備<br>・史跡公園内は、自由に散策できるようになっているが、車椅子での利用や管理用車両の通行に一定の園路が必要なため整備を計画 |
|    | 尖石（A区※） |                                                                                                                                             | ・尖石地区の南側園路（中央園路）は、計画したルートの脇に盛土で仮設園路を設置<br>・試掘調査の結果、当初計画したルート上に遺構（住居址）の存在が推測されたため、調査済み範囲の境界に設置する計画とした<br>・来場者の移動の負担を減らすため、「尖石さま」へ続く動線に、擬木による土居木階段を設置                            |

※表中地区名のアルファベットは『保存管理計画』（本計画のP65 図4-4）で示された地区名です



写真4-6 尖石地区 西側園路（平成12年度工事）



写真4-7 尖石地区 中央園路（平成12年度工事）



| 整備に対する評価<br>(◎：メリット、▲：デメリット)                                                                                                                           | 今後の課題                                                                                               |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ◎来場者の足の負担が軽減<br>◎バリアフリー対応<br>▲動線が市道で分断され、遺跡の一体感が感じられない<br>▲上部の砂の流出や凍上で凹凸のある歩きにくい園路となった                                                                 | ・再整備に合わせ、動線及びサインの再検討が必要であるとともに、遺跡を分断する市道の扱いについても検討が必要<br>・雨水や凍上で劣化した園路の改修又は撤去を含めた見直しが必要             |
| ◎見学の動線、史跡公園の維持管理用の道路、ウォーキング等に利用されている<br>▲盛土による直線的な形状であるため、史跡の景観を大きく損ねている<br>◎階段の設置により、歩きやすくなり、来場者の移動の負担を軽減することができた<br>▲経年により、雨水で表土が流出し、歩きにくくなっている箇所がある | ・史跡の景観にそぐわないため、撤去を含めた見直しが必要<br>・「尖石さま」へ続く階段は、地形・史跡の保存のためにも撤去が必要だが、撤去前までは、来場者が歩きにくくならないよう、盛土等での対応が必要 |



写真 4-8 尖石地区 東側園路(平成 12 年度工事)



写真 4-9 与助尾根地区 園路(現況)



写真 4-10 尖石地区 中央園路(現況)

## 3 園路及びサイン

| 項目  | 対象地区          | 『基本計画』での整備方針                                 | 整備の状況・根拠                                                                                                                                                   |
|-----|---------------|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 園路  | 与助尾根<br>(B区※) | 【動線の設定】<br>・ P62 と同                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>下層路盤の上に土質改良を行った山砂を敷き、その上に山砂を敷いて、ローラーで転圧し整備（再掲）</li> <li>園路に続く木橋の長さを短く、また、木橋との高さを合わせるため、台地斜面に盛土して施工</li> </ul>       |
|     | 谷部<br>(C区)    | 【動線施設】<br>・ 地形に合わせた土居木階段及び木道等の設置（W = 2.0m）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>既設の土橋の盛土を高くして土橋とする予定であったが、バリアフリーへの対応と上流側が池のように見えることが懸念されたため、木橋を設置することとした</li> <li>谷部地区に木橋が設置され、平成28年度に改修</li> </ul> |
| サイン | 全体            | 【サイン計画】<br>・ 動線計画に合わせたサイン配置…総合案内板、総合説明板、誘導標識 | <ul style="list-style-type: none"> <li>史跡公園と考古館周辺（駐車場）に説明板と案内板を設置</li> <li>道路を挟んだ一体の遺跡であることを示すサイン及び動線計画の検討が必要とされた（再掲）</li> </ul>                           |

※表中地区名のアルファベットは『保存管理計画』（本計画のP65 図4-4）で示された地区名です



写真 4-11 与助尾根地区へ続く木橋（改修前）



写真 4-12 与助尾根地区へ続く木橋（現況）



写真 4-13 総合案内板



写真 4-14 説明板（与助尾根地区）



| 整備に対する評価<br>(◎：メリット、▲：デメリット)                                                                                          | 今後の課題                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ◎園路整備によって、遺跡が保護された<br>▲木橋の設置によって、台地斜面が不自然な地形となった<br>▲草地として管理することによって、設置した園路がほぼ使われなくなっている                              | ・台地斜面の不自然な高まりを除去する必要                                                                           |
| ◎木橋の設置により、車椅子使用等の障がい者が史跡公園を利用しやすくなった<br>◎谷を俯瞰できるため、土橋よりは谷を実感できるものとなった<br>▲大きな構造のため、縄文時代の雰囲気や視界を阻害している<br>▲水環境に親しむ場が喪失 | ・縄文時代のイメージを創出するため、耐用年数経過後に撤去が必要<br>・撤去後は、バリアフリーに対応できることが必要<br>・谷を実感でき、水環境に親しむことができる新たな園路の検討が必要 |
| ◎遺跡の価値や内容を現地で伝えることができる<br>◎目指す地点への誘導に効果的<br>▲経年劣化による退色や塗装の剥落<br>▲一部に設置場所が適当でない案内板<br>▲多言語対応となっていない                    | ・表示部等の補修が必要<br>・設置場所の見直しが必要<br>・表示の多言語化への対応                                                    |



写真 4-15 尖石地区 誘導標識（支柱下部の劣化）



写真 4-16 誘導標識（支柱の割れ、板面の劣化）



写真 4-17 誘導標識（支柱へのコケ付着）



写真 4-18 説明板（基礎の露出）



# 4 植生管理

| 項目              | 対象地区                            | 『基本計画』での整備方針                                                                                                                                                               | 整備の状況・根拠                                                                                                                                                                    |
|-----------------|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「縄文の森」の創出、人工林伐採 | 尖石（A区※）<br>与助尾根（B区）<br>森林（F-2区） | <b>【「縄文の森」の創出】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>縄文時代の有用樹木を植栽（ナラ、クリ、クルミ等）</li> <li>遺跡の特徴と学術的価値を考慮しつつ、自然の中の縄文集落のもつ全体的な環境や雰囲気を表し、森の中を歩きながら憩い、楽しめる地区として整備</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>与助尾根地区に、縄文時代の原植生を復元するため、コナラ・クリ等の落葉広葉樹を植栽</li> <li>ハリエンジュの伐採については、森の中にある縄文集落というイメージを損ねないように、新たに植栽する樹木の生長を考慮し、段階的に伐採する計画とした</li> </ul> |
|                 | 尖石（A区）                          | <b>【人工林伐採】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>カラマツ等、後世に持ち込まれた樹木を伐採する</li> <li>市道（甲1号線）沿いのカラマツ林は伐採除去し、地区の南側と一体であることを感じられるようにする</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>尖石地区の南東側及び北西側の人工林カラマツの伐採・間引を実施</li> <li>市道沿いのカラマツの伐採は未実施</li> </ul>                                                                  |

※表中地区名のアルファベットは『保存管理計画』（本計画のP65 図4-4）で示された地区名です



写真 4-19 与助尾根地区「縄文の森」(現況)



写真 4-20 与助尾根地区「縄文の森」(現況)



写真 4-21 尖石地区 カラマツ伐採 (平成 19 年度工事)

| 整備に対する評価<br>(◎：メリット、▲：デメリット)                                                                                                                                                                                         | 今後の課題                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| <p>◎縄文時代の原植生と一体となった集落の姿を示すとともに、縄文時代の生活や集落のイメージを創出することができた</p> <p>◎ドングリ拾いを通じて、縄文時代の「食」や協働のあり方を体感できる</p> <p>◎自然観察会に利用されている</p> <p>▲ある程度完成した森とするため、高さ4～5mの樹木を密植した結果、樹木の生長に伴い、有用な草本や低木の生育しない暗い森となり、思い描いた姿とかけ離れた森になった</p> | <p>・間伐や枝払いを適切に行い、有用な草本や低木が生育する「縄文の森」とすることが必要</p>  |
| <p>◎縄文時代の植生復元に備えることができた</p> <p>▲市道沿いのカラマツは伐採されておらず、尖石地区の北側と南側が分断されているように感じる</p>                                                                                                                                      | <p>・継続的な除間伐が必要</p> <p>・市道沿いの伐採については、時期を検討する必要</p> |



写真 4-22 尖石地区 カラマツ伐採（平成 20 年度工事）

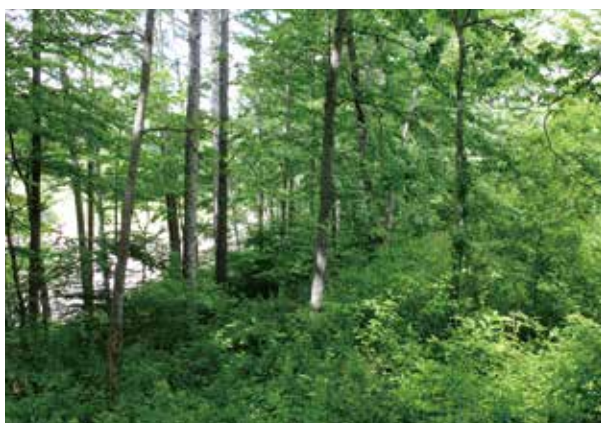


写真 4-23 尖石地区 カラマツ伐採・間引き箇所（現況）



写真 4-24 尖石地区 市道（甲 1 号線）沿いのカラマツ（現況）



### 第3節 史跡の抱える課題

第1期整備における課題の他、その後、新たに生じた課題などがあります。下記にそれらをまとめます。

#### 1 史跡の保存

| 項目             | 地区           | 状況・現況                                                                                                                                                                                                               |
|----------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「尖石さま」付近の斜面の保護 | 尖石<br>(A区※)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨水や凍上、天然カラマツの根張りにより、「尖石さま」のある尖石台地南斜面の表土の流失が徐々に進行</li> <li>・遺跡名の由来となる「尖石さま」周辺の自然環境が損なわれている</li> </ul>                                                                        |
| 台地斜面の保護        | 与助尾根<br>(B区) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・与助尾根台地の南斜面は、近世以降の開田による掘削と湧き水を利用した水路の敷設を契機とし、雨水や凍上などによる崩落で地山（赤土）が露出</li> <li>・平成28年(2016年)の露出部調査で、縄文時代の土坑を3基、昭和22年(1947年)に宮坂英弼が調査した4号住居址（現117号住居址）の一部とみられる落ち込みを確認</li> </ul> |

※表中地区名のアルファベットは『保存管理計画』（本計画のP65図4-4）で示された地区名です

#### 2 集落復元

| 項目        | 地区          | 状況・現況                                                                                                                                                                          |
|-----------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 住居・集落等の復元 | 尖石<br>(A区※) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡内にある民有地の確認調査が行われていないため、集落の構成に不明な点がある</li> <li>・与助尾根遺跡（集落）の「母村」とみられる尖石遺跡に復元住居がないために、谷を挟んで並ぶ縄文集落の姿がわからない</li> </ul>                    |
| 水場の保全・整備  | 谷部<br>(C区)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンノキ林の下層に湿地性植物が繁茂する植生が想定された</li> <li>・後の調査でC区の谷戸水田となっている箇所は、縄文時代の地層が失われていることが判明</li> </ul>                                             |
|           | 南谷部<br>(D区) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・尖石台地南側に営まれた集落の水場と考えられ、縄文土器等が採集されたことから、平成13年(2001年)に尖石遺跡の一部として遺跡範囲を拡大（令和2年(2020年)11月に追加指定の答申）</li> <li>・確認調査が行われていないため、実態が不明</li> </ul> |

※表中地区名のアルファベットは『保存管理計画』（本計画のP65図4-4）で示された地区名です



| 課題                                                                                                                                                                                 | 写真                                                                                 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・地形が大きく改変しないよう、斜面の調査と保護が必要</li> <li>・「尖石さま」付近は、森の中にたたずむ縄文集落のイメージにふさわしい環境整備が必要</li> </ul>                                                    |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然史的資産である台地が崩落し、歴史的資産である遺構の一部がき損したため、斜面の保護が必要</li> <li>・斜面の保護と谷部地区の一体的整備の検討が必要</li> <li>・斜面保護の方法の検討が必要</li> <li>・確認した遺構の記録作成が必要</li> </ul> |  |

| 課題                                                                                                                                              | 写真                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡内にある民有地を公有地化し、確認調査を行い、集落の構成を明らかにした上で、整備する必要</li> <li>・尖石地区に同時期（曽利Ⅱ式期）の復元住居の建設が必要</li> </ul>           |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・与助尾根台地の南斜面の保護に合わせ、谷部地区の水路付替えが必要</li> <li>・与助尾根地区及び尖石地区北側の集落の水場と考えられる地域であり、縄文時代の水場が感じられる整備が必要</li> </ul> |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・公有地化と確認調査による実態把握が必要</li> <li>・遺構確認調査と自然環境調査の結果を踏まえた水場としての整備が必要</li> </ul>                               |  |

### 3 植生管理

| 項目            | 地区      | 状況・現況                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 外来種の繁茂        | 全体      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定外来生物指定種であるオオハンゴンソウや外来種であるハリエンジュ（通称ニセアカシア）などが繁茂</li> <li>・ 縄文の森のイメージを損なう景観が形成される恐れがある</li> </ul>                                                                               |
| 市道（甲1号線）沿いの植栽 | 尖石（A区）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植林されたカラマツとアカマツが群落を形成している</li> <li>・ 市道（甲1号線）に面したカラマツが尖石地区から与助尾根地区の眺望を、アカマツが八ヶ岳の眺望を妨げている</li> <li>・ 創出した「縄文の森」の景観を損ねている</li> <li>・ 低木により、見通しの悪い箇所があり、来場者の安全な通行等に支障がある</li> </ul> |
| 谷、水場の管理       | 谷部（C区※） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年に2回草刈りによる管理を実施</li> <li>・ 平成7年（1995年）に自然環境調査が行われ、潜在自然植生はハンノキやチダモ林とされた</li> </ul>                                                                                               |
|               | 南谷部（D区） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在民有地となっている</li> </ul>                                                                                                                                                          |

※表中地区名のアルファベットは『保存管理計画』（本計画のP65 図4-4）で示された地区名です

| 課題                                                                                                                                 | 写真                                                                                                 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続的かつ計画的に間伐又は駆除し、「縄文の森」のイメージを保つことが必要</li> </ul>                                           |  <p>オオハンゴンソウ</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続的かつ計画的な間伐や枝払いにより、眺望を確保するとともに、縄文時代の集落景観と原植生保全が必要</li> <li>・ 来場者が安全に通行できる管理が必要</li> </ul> |                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 縄文時代の植生をイメージできる管理が必要</li> </ul>                                                           |                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 縄文時代の植生をイメージできる管理が必要</li> </ul>                                                           |                |



## 4 活用

| 項目             | 地区             | 状況・現況                                                                                                                                                                                                    |
|----------------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 屋外トイレの洋式化      | 考古館<br>(E-1区※) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 史跡公園の来場者をはじめ、尖石縄文考古館や青少年自然の森の来場者が利用</li> <li>・ 洋式でないため、使えない子どもがいる</li> <li>・ 高冷地であるため、冬季は閉鎖</li> </ul>                                                          |
| 青少年自然の森との連携    |                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学校を対象に土鈴・勾玉づくり等の体験学習を実施</li> </ul>                                                                                                                            |
| 一体的な情報提供       |                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考古館の展示と史跡公園の整備を通し、遺跡の概要や縄文時代の生活文化のありようを示しているが、考古館の展示に遺跡の最新情報が未反映</li> <li>・ 一般の来場者に対し、尖石遺跡の概要、特色、集落の様子など総合的な情報提供が不足</li> </ul>                                  |
| 多目的に利活用できる場の提供 |                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 良好な自然環境に恵まれているが、学習の場としてのイメージが強い</li> <li>・ さまざまな体験活動やイベント、サークル活動が行われているが、史跡内だけでは、『縄文プロジェクト』に謳われているすべての取組を実施できない</li> <li>・ 市民に親しめる憩いの場として十分に活用されていない</li> </ul> |

※表中地区名のアルファベットは『保存管理計画』（本計画のP65 図4-4）で示された地区名です

| 課題                                                                                                                                                           | 写真                                                                                   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリー対応が必要</li> <li>・来場者に使いやすいトイレにする必要</li> <li>・木橋の撤去に伴う園路（動線）の再整備に合わせ、建設位置を含め建替えを検討する必要</li> </ul>                |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・縄文時代の生活文化と関連付けた野外体験学習メニューの開発と実施が必要</li> </ul>                                                                        |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・尖石遺跡の重要性と遺跡を取り巻く豊かな自然を伝えるためにも、展示の工夫や最新情報を反映することが必要</li> <li>・史跡と考古館の相互活用や新技術の採用により、分かりやすく総合的な情報を提供することが必要</li> </ul> |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡の保存と活用を両立するために、史跡の隣接地にさまざまな野外活動が行え、交流や憩いの場として多目的に活用できる場所が必要</li> </ul>                                             |  |

## 第4節 その他の課題

ここでは、前述の1～4以外のものをその他の課題としてまとめます。

| 項目     | 地区                                                                   | 状況・現況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------|----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 確認調査   | 尖石<br>(A区※)<br><br>与助尾根<br>(B区)<br><br>谷部<br>(C区)<br><br>南谷部<br>(D区) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・縄文集落の範囲と内容を把握し、遺跡の保存整備に資するため、平成17年(2005年)までに史跡の約5%の試掘調査を実施</li> <li>・縄文集落の継続期間と変遷、遺構確認面までの深さを把握</li> <li>・史跡内外の民有地の調査を行っていないため、集落の西側限界と構成が不明</li> <li>・谷部地区の当時の利用状況が不明</li> <li>・南谷部地区の実態も不明</li> </ul>                                                                                                                                                            |
| 史跡公有地化 | 尖石(A区)                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡指定地 66,933.405 m<sup>2</sup>のうち、62,990.405 m<sup>2</sup> (約94%)を公有地化し、史跡の大部分が恒久的に保存された</li> <li>・遺構(住居址)の存在が確実視される史跡内の民有地 3,943 m<sup>2</sup>は公有地化が未了</li> <li>・尖石地区の西には農地(民有地)が広がり、地形的にも史跡に連続する平地となっている</li> </ul>                                                                                                                                              |
| 市道・私道  | 尖石(A区)                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市道(甲1号線)が史跡の中央を東西に通じている</li> <li>・市街地と八ヶ岳西麓の集落、別荘地、及び観光地を結ぶ主要な道路の1つで、史跡と尖石縄文考古館へのアクセス道路に利用されている</li> <li>・尖石地区の縄文集落が南北に分断され、一体感のある縄文集落を整備することができていない</li> <li>・車の頻繁な往来が景観を損ね、来場者の横断に支障をきたしている</li> <li>・史跡中央を通じる市道のほかに、隣接する民有地に通じる市道が5か所、私道が1か所あり、これらの道路を使って史跡に隣接する民有地の営農が行われている</li> <li>・市道は見学動線に利用されている</li> <li>・市道の一部が園路と重なり、通行車両が来場者の見学に支障を及ぼしている</li> </ul> |
| 維持管理   | 全体                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・草刈りや支障木・枯損木の伐採など、定期的に史跡の維持管理を行っている</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

※表中地区名のアルファベットは『保存管理計画』(本計画のP65図4-4)で示された地区名です



| 課題                                                                                                                 | 写真                                                                                   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中期を通して営まれた縄文集落の構成と変遷を示すため、台地上と谷部の継続的かつ計画的な調査が必要</li> </ul>                |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 史跡を適正に保存するため、史跡内の民有地の公有地化が必要</li> </ul>                                   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一体感のある縄文集落の整備等、縄文時代のたたずまいを再現するとともに、来場者が安全に安心して見学ができるように、付替えが必要</li> </ul> |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来場者の安全と史跡にふさわしい景観を保全するため、史跡内にある市道・私道の撤去又は付替えが必要</li> </ul>                |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土砂災害や倒木などへの対応を想定する必要</li> </ul>                                           |  |

## 第5節 課題の整理

### 1 第1期整備における課題の整理

第1期整備（『基本計画』）における課題をまとめると次のようになります。

#### (1) 史跡の保存

##### ① 雑司久保堰の改修（尖石地区）

- 改修により史跡が保存されたが、尖石地区の北側へ行くには、堰を横断する必要があることから、横断方法の検討が必要

#### (2) 集落復元

##### ① 尖石地区の住居址表示（33号住居址）

- 埋め戻した後の表示が住居構造に対する誤解を招く恐れがあるため、撤去又は表示方法の見直しが必要

##### ② 与助尾根地区の集落復元

- 復元住居の老朽化が進行していることから、建替えや展示方法の変更が必要
- 考古学的な研究と成果をいかした建築仕様にする必要
- 今後の確認調査の結果も含め、復元住居とする住居址を検討する必要

#### (3) 園路及びサイン

##### ① 園路

###### 全体

- 再整備に合わせ、動線及びサインの再検討が必要であるとともに、史跡を分断する市道（甲1号線）の扱いについても検討が必要
- 雨水や凍上で劣化した園路の改修又は撤去を含めた見直しが必要

###### 尖石地区

- 盛土による直線的な形状で、史跡の景観を大きく損ねていることから、撤去を含めた見直しが必要

###### 谷部地区

- 縄文時代のイメージを創出するため、耐用年数経過後に木橋の撤去が必要
- 撤去後は、バリアフリーに対応する園路の検討が必要
- 谷が実感でき、水環境に親しめる新たな園路の検討が必要

##### ② サイン

###### 全体

- 経年劣化による退色や塗装の剥落等があることから、表示部の補修が必要
- 一部に設置場所が適当でない案内板があることから、設置場所の見直しが必要
- 多言語対応となっていないことから、対応が必要

## (4)植生管理

### ①「縄文の森」の創出（尖石地区・与助尾根地区・森林地区）

- ・ 樹木の生長に伴い、うす暗い森となったことから、間伐や枝払いを適切に行い、草本や低木が生育する「縄文の森」とすることが必要

### ②人工林伐採（尖石地区）

- ・ 縄文時代の植生復元に備えることができたが、市道（甲1号線）沿いのカラマツが伐採されていないため、当該箇所の伐採が必要
- ・ 伐採した箇所についても継続的な除間伐が必要

## 2 史跡の抱える課題の整理

### (1)史跡の保存

#### ①台地斜面の保護（与助尾根地区）

- ・ 自然史的資産である台地が崩落し、歴史的資産である遺構の一部がき損したため、斜面の保護と遺構の保存が必要
- ・ 斜面の保護と谷部地区の一体的整備の検討が必要
- ・ 斜面保護の方法の検討が必要
- ・ 確認した遺構の記録作成が必要

#### ②「尖石さま」付近の斜面の保護（尖石地区）

- ・ 地形が大きく改変しないよう、斜面の調査と保護が必要
- ・ 遺跡名の由来にもなっている「尖石さま」付近は、森の中にたたずむ縄文集落のイメージにふさわしい環境整備が必要

### (2)集落復元

#### ①尖石地区の住居、集落の復元

- ・ 集落の構成を明らかにするため、史跡内にある民有地の確認調査が必要
- ・ 与助尾根遺跡（集落）の「母村」とみられる尖石遺跡に復元住居がなく、谷を挟んで並ぶ縄文集落の姿がわからないため、尖石地区に同時期（曾利Ⅱ式期）の復元住居の建設が必要

#### ②水場の保存・整備

##### 谷部地区

- ・ 与助尾根台地の南斜面の保護に合わせ、谷部地区の水路付替えが必要
- ・ 集落の水場と考えられる地域のため、縄文時代の水場が感じられる整備が必要

##### 南谷部地区

- ・ 公有地化と確認調査による実態把握が必要
- ・ 遺構確認調査と自然環境調査の結果を踏まえた水場としての整備が必要



### (3)植生管理

#### ①外来種の繁茂（全体）

- ・ 継続的かつ計画的に間伐又は駆除し、「縄文の森」のイメージを保つ必要

#### ②市道（甲1号線）沿いの植栽（尖石地区）

- ・ 継続的かつ計画的な間伐や枝払いにより、眺望の確保が必要
- ・ 間伐や枝払いを行い、来場者の安全確保が必要

#### ③谷、水場の管理

##### 谷部地区

- ・ 斜面の保護と谷の一体的整備が必要であるとともに、植生の管理が必要

##### 南谷部地区

- ・ 縄文時代の植生をイメージできる管理が必要

### (4)活用

#### ①屋外トイレの洋式化（考古館地区）

- ・ 洋式化も含めたバリアフリー化により、来場者にとって使いやすいトイレする必要
- ・ 園路の再整備に合わせ、建設位置を含め建替えを検討する必要

#### ②青少年自然の森との連携

- ・ 縄文時代の生活文化と関連付けた野外体験学習メニューの開発と実施が必要

#### ③一体的な情報提供

- ・ 史跡の重要性と遺跡を取り巻く豊かな自然を伝えるためにも、尖石縄文考古館の展示の工夫や最新情報を反映することが必要
- ・ 史跡と尖石縄文考古館の相互活用や新技術の採用により、分かりやすく総合的な情報を提供することが必要

#### ④多目的に利活用できる場の提供（多目的広場地区）

- ・ 史跡の保全と活用を両立するために、史跡の隣接地にさまざまな野外活動が行え、交流や憩いの場として多目的に利活用できる場所が必要

### 3 その他の課題

#### (1)確認調査（尖石地区・与助尾根地区・谷部地区）

- ・ 中期を通して営まれた縄文集落の構成と変遷を示すため、台地上と谷部の継続的かつ計画的な調査が必要

#### (2)史跡公有地化（尖石地区）

- ・ 史跡を適正に保存するため、史跡内の民有地の公有地化が必要

#### (3)市道（甲1号線）（尖石地区）

- ・ 一体感のある縄文集落の整備等、縄文時代のたたずまいを再現するとともに、来場者が安全に安心して見学ができるように、付替えが必要

#### (4)市道・私道（尖石地区）

- ・ 来場者の安全と史跡にふさわしい景観を保全するため、史跡内にある市道・私道の撤去又は付替えが必要

#### (5)維持管理（全体）

- ・ 土砂災害などへの対応を想定する必要

### 4 本計画で扱う課題

先に述べた課題を基に本計画に沿った整備で解決する課題を以下のように定め、整備の理念、基本方針及びコンセプトを第5章で、整備の基本計画を第6章で述べることにします。

「その他の課題」についてはそれぞれの項目ごとに第6章及び第7章に記載しました。

(1) 史跡の保存（第6章 第2節）

(2) 集落復元（第6章 第2節）

(3) 園路及びサイン（第6章 第2節）

(4) 植生管理（第6章 第2節）

(5) 活用（第6章 第2節）

(6) その他（第6章、第7章）

①遺構確認調査…第6章 第3節

②史跡公有地化…第7章 第1節

③市道（甲1号線）…第6章 第5節

④市道・私道…第6章 第5節

また、第6章で計画する整備を通して、第7章で述べる尖石縄文考古館や青少年自然の森との連携などの取組を推進し、市民・地域・行政が一体となり、保存・活用を図っていきます。